

歴史文化クラブ11月研修会

「聖徳太子と秦河勝」 坂東久平

11月15日、歴史文化クラブ研修会を開催。予報を覆し穏やかな好天に恵まれ、秦河勝の本拠地とされる太秦、嵯峨野を訪ねる。

参加者は定員満杯の27名。途中で心配された交通渋滞もなく、定刻通りの運行となった。



(木嶋神社にて)

冒頭、川井会長よりご挨拶があり、東京での「緑の都市賞」授章式と、東大寺での「あしたのなら」表彰式について、鈴木会長に代わり報告があった。

車中で、古川さんから秦河勝解説第1部があった。秦氏は、5世紀後半に朝鮮半島の新羅から渡来したとされ、祖は秦の始皇帝に始まる系図もある。弓月君が応神朝に渡来し、雄略朝に秦造酒、飛鳥時代から奈良時代に掛けて、秦河勝が活躍した経緯を拝聴。(解説第2部は、帰途の車中)

秦氏は、政治にあまり関与しない殖産的氏族として、先進文化の養蚕、土木技術などで勢力を伸ばし、河勝(川勝)の公式史料への登場は少ないが、崇徳戦争で聖徳太子を助けての活躍、推古10年に太子より賜った仏像を、蜂岡寺(後の広隆寺)に収めたことなどが有名である。

河勝は、桂川に大井堰を築き、荒野であった嵯峨野を灌水し地域の発展に尽くす。葛野と呼ばれたこの地は、秦氏の根拠地として栄えた。秦氏関連の、広隆寺、松尾大社、木嶋神社、大酒神社、梅宮神社、法輪寺があり、秦氏の長のものである古墳(蛇塚古墳など5世紀末から6世紀末に造られた前方後円墳)が残されている。

ここ太秦の地は、私の生まれ故郷で、懐かしく、想いを込めて案内させていただいた。

第1番目の訪問地は、蚕ノ社(木嶋神社)で、日本でも唯一といわれる「三柱鳥居」があり、三角形の頂点の方向に、松尾大社、伏見稻荷(秦氏関連)、双ヶ岡(頂上に秦氏のものであると思われる古墳)がある。三柱鳥居は泉の中に立っており、今は涸れているが、70年前には土用の丑の日に無病息災を願って、足を浸けに来たものだ。

広隆寺では、霊宝館で数々の仏像を拝観し、中でも「みろくぼさつはんかしいぞう弥勒菩薩半跏思惟像」は国宝第1号で有名である。

ここから徒歩(約15分)の所に蛇塚古墳がある。石室だけが露出した状態で、周囲は住宅地になっている。鍵を開けて頂き、石室内にはいったが、飛鳥の石舞台に匹敵する大きさに圧倒される。



梅宮大社のベンチで昼食。ここで、子宝を授かるという「またげ石」や、熊野のカラスが石になったとされる「ようこう影向石」を拝観する。

松尾大社は秦氏の氏神。御祭神の“おおやまくいのかみ大山咋神”は、大山に杭を打つ神であり、農耕(治水)を司る神とされ、比叡山の日枝神社の御祭神でもある(三柱鳥居との関わりもありそうだ)。

境内には、沢山の酒樽が奉納されており、前庭で、珍しい植物「カギカズラ」を観察した。

十三詣で有名な法輪寺に登る。元の名は葛井寺だったが、中興の道昌が892年に虚空蔵菩薩を安置して法輪寺と改めた。道昌も秦氏の末裔であり、先祖の建設した葛野大堰を修復し、この功績を讃えた石碑が、大堰川左岸に建っている。

法輪寺からは、徒歩で渡月橋に向かい葛野大堰を見た。後世に改修されているが、今も嵯峨野に水を送り続けていることが感慨深い。

今回特別参加の川勝孝雄さんは、秦氏の子孫である。家伝の古文書を拝見させていただき、一同は大興奮。

色づき初めた嵐山の紅葉や、美しい银杏や楓の黄葉に感嘆しながらの歴史探訪であった。